

意欲的・主体的学習をめざすビデオ教材の制作と活用

～ 6学年 マット運動の学習を通して～

目 次

I 主題設定の理由	67
II 研究仮説	68
III 研究内容	68
IV 研究方法	68
V 研究計画	69
VI 研究結果と考察	69
1. 新しい学力観に基づく体育指導のあり方	69
2. ビデオ教材制作	70
(1) ビデオ教材制作の意義	70
(2) ビデオ教材制作全体計画	71
(3) ビデオ教材制作方法と本教材制作経過	72
3. ビデオ教材活用	73
(1) 授業実践	73
① 児童の実態	73
② 検証授業指導案	75
③ 授業の分析	80
(2) ビデオ教材活用までの諸問題と改善の一方策	81
4. ビデオ教材の活用に関する実態調査と考察	82
(施設・設備, 活用における問題点)	
IV 研究の成果と今後の課題	85
VIII 参考文献および引用文献	86

浦添市立当山小学校教諭

松 田 哲 哉

意欲的・主体的学習をめざすビデオ教材の制作と活用

～ 6 学年 マット運動の学習を通して ～

浦添市立当山小学校 松田 哲哉

I テーマ設定理由

「前回りができない」「逆上がりができない」「跳び箱が跳べない」多くの子どもたちに出会う。個人差を考慮した指導を心がけたいのだが、私の実践の中では満足いく指導ができず、今まで幾度となく「運動嫌い」の子どもを育ててきてしまったのではないかと自責の念を感じる。

「できる」ことの楽しさを、どの子にも味わわせたい。どの子も目標を持ち、楽しく学習に参加できる授業を創りたい。——— そのような思いから、児童の興味・関心を引き出し、児童が意欲的・主体的に学習参加できる指導法の研究を深めたいと考えた。

「新しい学力観に立った学習指導」においては、

「内発的な学習意欲を喚起し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの能力を培うこと」

が重要であると示されている。また、「学習指導要領の展開，体育科編」では、

「運動領域の授業で、学習に必要な資料、技能の分析カード、学習カード、記録カード、グループノート、写真、カセットテープ、ビデオなどから効果的なものを準備しておく」

必要性があるとし、児童の内発的な学習意欲を引き出す工夫を具体的に提示している。

上記の内容から「児童を意欲的・主体的学習に導く指導法の研究」は、今後、学習指導の研究における重要な視点の一つになるであろうと考えている。

そこで、本研究では、児童を意欲的・主体的学習に導くための教材制作と、その活用方法に着目し、研究を進めることにした。その中でも特に、児童の視覚や聴覚にうったえる学習活動が可能なビデオ教材の制作と活用に焦点をしぼり、研究を深めていくことにした。

現在でも、ビデオ教材の活用は、市販ビデオ教材を中心に学校現場でなされている。しかし、教材や環境の問題点が十分改善されぬまま、活用が行われているのが現状ではないだろうか。

例えば、①教材の質の検討が不十分 ②教材の量が不足 ③活用方法が未検討 ④施設・設備の不備等の問題である。実際に、ビデオ教材活用の現状に上記のような問題点が残されているのか調査を実施し、実態把握を行いたい。

その結果をふまえ、ビデオ教材を制作し、活用を図る中で「意欲的・主体的学習」に導く、ビデオ教材の制作と活用のよりよいあり方を探る目的で、本研究テーマを設定した。

II 研究仮説

マット運動の学習において、指導内容を明確化したビデオ教材を、指導計画の中に位置付け各学習段階に適した方法で活用することにより、児童を意欲的・主体的な学習に導くことができるであろう。

III 研究内容

1. 新しい学力観に基づく体育教科指導のあり方
2. ビデオ教材の制作と活用
3. 市内小中学校のビデオ教材活用に関する施設・設備の実態調査
4. ビデオ教材作成・活用における成果と課題の明確化

IV 研究方法

1. 文献・資料による理論研究
 - (1) 新しい学力観における体育指導ありかた
 - (2) 映像を活用した授業のありかた
 - (3) ビデオ教材制作方法ならびに活用のよりよいあり方
2. ビデオ教材制作
 - (1) ビデオ教材制作の全体計画とシナリオ作成
 - (2) 撮影計画, 撮影実施
 - (3) 編集
3. ビデオ教材活用
 - (1) 自作ビデオ教材を活用した授業実践
 - (2) 授業研究会での授業評価
4. 実態調査研究（浦添市内小・中学校の実態調査）
 - (1) ビデオ教材活用に関する施設・設備の実態調査
 - (2) ビデオ教材活用の実態調査
 - (3) ビデオ教材活用における問題点の把握
5. 成果と課題の明確化

V 研究計画

4 月	5 月	6 月	7 月
理論研究	シナリオ作成・撮影	編集・検証授業・授業研究	研究のまとめ

VI 研究結果と考察

1. 新しい学力観に基づく体育指導のあり方

(1) 新しい学力観に基づく各教科・領域の指導のポイント

新しい学力観に立った教育においては、内発的な学習意欲を喚起し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの能力を培うことが重要であるとされている。
そのためには、「児童の良さを生かす教育」を創造するとともに、「児童が主体的に学習できる力を育てる指導のあり方」を追求することが大切である。

(2) 学習指導要領（体育科）で強調されている点

体育科においては、「生涯体育・スポーツ」を指向することが強調されている。このことから、児童一人ひとりが生涯にわたって運動に親しみ、かつ、楽しみながら実践していくために、自分の持つ良さ・可能性を發揮しながら主体的に運動に取り組む学習および評価活動を展開していくことが大切である。

(3) 単元のねらいの明確化

学習を進めるにあたり、単元のねらいを「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」の観点から明確化するとともに、観点ごとに具体的な児童の姿を捉えることが大切である

(4) 学習過程の工夫

児童が意欲的・主体的に学習を進めていくには、児童の学習活動と教師の指導の要点を明らかにし、指導が学習内容を理解し、身につけるための指導の進め方などの見通しがなければならない。

そして、学習の主体である児童が行う学習のねらいと道すじを具体的（理想的）な児童の活動として予測し、それに必要な教師の指導活動の予定を立てることが大切である。

(5) 評価の工夫

何ができるようになったのか（できたか）、何ができないのか、どこでつまづいているのか、どうしたらできるようになるのか、等に視点を置きながら、学習の過程において児童の自己評価活動を支援することが大切である。

2. ビデオ教材作成

(1) ビデオ教材制作の意義

財団法人日本放送教育協会の野田一郎氏

は、「教師のためのビデオ制作入門」の中でビ

デオ教材制作の意義として下記の10点をあげている。

- ① 映像と音声により構成されているので、具体性があり情緒性、真実性を発揮することができる。
- ② ビデオの特製を活かした即時性が発揮でき、教材鮮度が高い。
- ③ 身近な教師と児童・生徒の自作なので親近感があり、児童・生徒の能力の実態にそった教材が制作できる。
- ④ 自分たちの姿や行動、身近な問題をとらえることが容易である。
- ⑤ 因果関係や論理の展開を整理、要約して提示できる。
- ⑥ あらゆる媒体の映像化が可能で、マルチ・メディアの機能を教材にもたせることができる。
- ⑦ テレビと異なり、ストップさせたり、反復して見せたりすることができる。
- ⑧ 教材の長さは、伸縮自在で時間に拘束されない。
- ⑨ 教材の一部修正や改善がたやすくできる。
- ⑩ 制作が比較的簡単で、しかも児童・生徒との合作により教師との好ましい人間関係ができる。

同じく、財団法人日本教育放送協会の八重樫克羅氏

は、「創る 教師のためのビデオ制作

技法」の中で、ビデオ教材制作の意味を次のように述べている。

- ① 見る人々に、知的にあるいは感性的に刺激を与え、いろいろな意味での緊張をかき起こす。
- ② 身近な素材の中で、いわゆるプロが絶対に描くことのできない独自の世界を描きだせる可能性がある。
- ③ 制作活動が子どもたちによって理想的に行われるならば、自分たちの身の回りの出来事をさらに広い社会や、文明、歴史などに結びつけて考える姿勢を培う。
これからの理論を基本に、私は、ビデオ教材作成の意義を下記のように考えている。

- ① 地域素材の教材化により、教材のもつ特性や価値を学習者に身近にすることができる。
- ② 映像・文字・言語・音声（音楽や活動の際に生じる音等）の学習情報によって学習理解の援助をすることができる。また、学習に対する興味を起すことができる。
- ③ 実態に即した、教師の意図する学習形態の構成が可能であり、修正も必要に応じて適時行える。
- ④ 教師にとっては、指導のポイントを明確にする努力を促す教材研究活動となる。

(2) ビデオ教材制作全体計画

楽しく学ぶマット運動

マット運動の学び方	単一種目紹介、練習の工夫	連続技の紹介	発展技の紹介
時間と活用法	時間と活用法	時間と活用法	時間と活用法
<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>10分番組</u> 1巻 ○ <u>導入段階</u>で活用 ○ <u>全体</u>で視聴 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>各5分番組</u>, 12巻 ○ <u>展開段階</u>で活用 ○ 必要に応じて<u>個人</u>で 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>各5分番組</u> 3巻 ○ <u>展開段階</u>で活用 ○ <u>個人</u>で 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>5分番組</u> 1巻 ○ <u>まとめの段階</u>で活用 ○ <u>全体</u>で視聴
内容の概要	内容の概要	内容の概要	内容の概要
<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全の留意点 2. 学習の心構え <ul style="list-style-type: none"> ○ 真剣に練習 ○ 自分のめあてをもって ○ 工夫して練習 ○ 新種目にも挑戦 3. めあての立て方 <ul style="list-style-type: none"> ○ めあて①の立て方 (授業前半) ○ めあて②の立て方 (授業後半) 4. 協力の大切さ <ul style="list-style-type: none"> ○ 補助 ○ 技のチェック ○ アドバイス 5. 単一種目紹介 	<p>単一種目の練習方法紹介</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 側転 2. 前転・開脚前転 3. 後転・開脚後転 4. 側方倒立回転 5. 水平バランス・片足水平立ち・V字バランス 6. 片足旋回 7. 跳び前転 8. 伸膝前転 9. 伸膝後転 10. 補助倒立 11. 倒立(手) 12. 頭はねおき <p>等の練習のポイントや、練習の場の工夫や補助の方法を紹介する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 連続技の紹介 ～ 初級 ～ 2. 連続技の紹介 ～ 中級 ～ 3. 連続技の紹介 ～ 上級 ～ <p>各個人にあつたレベルの連続技のサンプルを紹介</p>	<p>高校体操部による床運動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Y字バランス 2. 側倒バランス 3. 前方宙返り 4. 後方倒立回転 5. 後転倒立 6. 側方倒立回転後ろひねり (ロンダード) <p>等の連続技 真似はしないように注意</p>

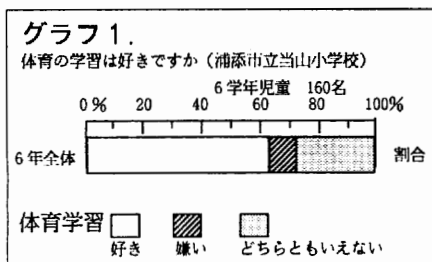
(3) ビデオ教材制作方法と本教材制作経過

段 階	各段階における活動内容	本教材の制作経過	教材制作での特記事項
教材研究	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材制作の目的の明確化 ○ 映像効果の計画 ○ 利用する場の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教材制作の理論研究 ◎ マット運動歴史年表技の体系表作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 幼稚園から6年生までの技のつながりや場の工夫を把握
企 画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形式の決定 ○ 保有機材の検討 ○ 放映時間の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教材制作全体計画 単一種目12, 連続技3, 発表技1, 全17巻 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各学習段階にあった内容・視聴時間の検討
台本作成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出演者・協力者への協力願い ○ 撮影場所の計画 ○ カメラ等、機器の準備 ○ タイトル・パターン作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 小学校学年担任・児童への協力依頼 ○ 高校体操部コーチ・部員への協力依頼 ○ タイトル模型作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「楽しいマット運動」台本57ページ。課題点が多かった。 ◇ 片足水平立ちの模型を紙粘土で作成
読み合せ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演技の確認 ○ 出演者打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 台本の概要説明 ○ 撮影日程確認 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 撮影の期日・人数方法・内容の説明
台本修正	<ul style="list-style-type: none"> ○ コメントの修正 ○ 画面割りの計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習の工夫等再挿入 ○ 演技以外の画面構成 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 児童が興味を持つ映像撮影（動物等）
カメラリハーサル	<ul style="list-style-type: none"> ○ 照明 ○ 撮影場所の再検討 ○ 小道具の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャンプ用サーチライト借用 ○ 補助教具等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 黄色光で、今回は適当な照明ではなかったため再検討が必要
録 画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 撮影器具・場所の設定 ○ 演技者との演技再確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 撮り残しの再撮影 ○ テレビ移動台作成 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 撮影不十分な内容の再録画
編 集	<ul style="list-style-type: none"> ○ 録画内容の選択 ○ 構成の再検討 ○ 文字入れ・スロー録画 ○ アフレコ、コメント・音楽 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理解しやすい画像選択・構成 ○ 演技の留意点, 文字コメント, 音楽の録音 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 意図する画面を撮るために何度か同じ演技の撮影の必要有 ◇ コメントは修正可

3. ビデオ教材活用

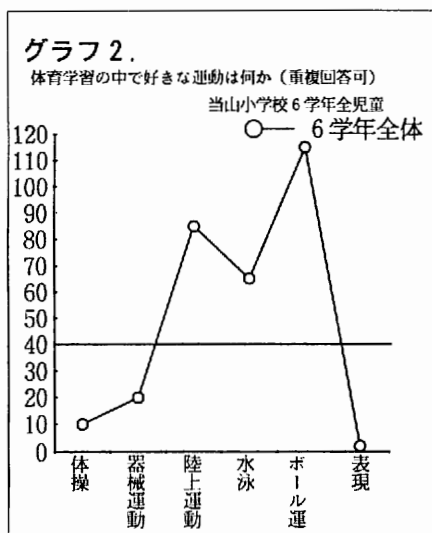
(1) 授業実践

① 児童の実態 (平成5年5月浦添市立当山小学校 第6学年 160名対象)



【グラフ1. 体育学習は、好きですか】

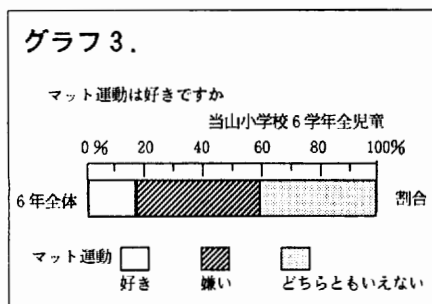
本校の6学年児童(160名)の実態を見ると体育の学習が「好き」である児童が6割をえている。「嫌い」答えたのは、1割に満たない。



【グラフ2. 体育学習の中で好きな運動は何ですか】

「ボール運動」と答えた児童が1番多く、110人をこえている。(約7割)

「器械運動が好き」と答えた児童は、20人をこえた程度であり、少ない。(約1割)



【グラフ3. マット運動は、好きですか】

「好き」と答えた児童が18.1%(29人)、「嫌い」と答えた児童が40%(64人)である。マット運動を「嫌い」と答えている児童がかなり多い。

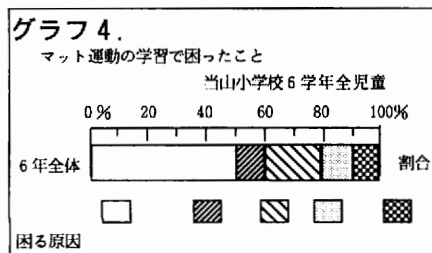
【グラフ4. マット運動をして1番困ったこと】

「うまくならないこと」が5割で、一番多い。

【グラフ5. マット運動をして1番うれしかったこと】

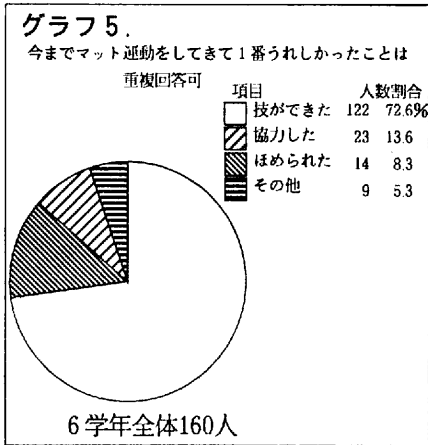
「技ができたこと」が7割で一番多い。

このことから、本校6学年の児童は、マット運動の技が「できる」「できない」が児童のマット運動の学習意欲に大きく影響を及ぼしていると考えられる。



【グラフ6. マット運動の技をどのような方法で学んできましたか。また、学びたいですか。】

教師や友達など「他の人を見て学んできた」児童が多い。(約130人、8割)

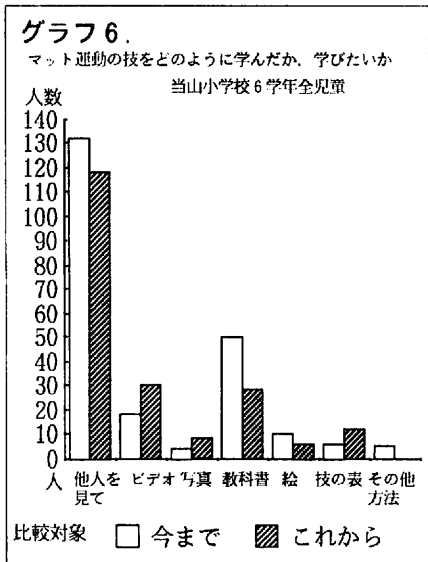


技の習得方法について「どんな方法でこれから学んでいきたいか」という問いに対しては、「教科書を見て」「他の人を見て」が減少し、「ビデオを見て」「技の系統を見て」と答えが増加している。

【グラフ7. マット運動の中で、できそうな技は何】

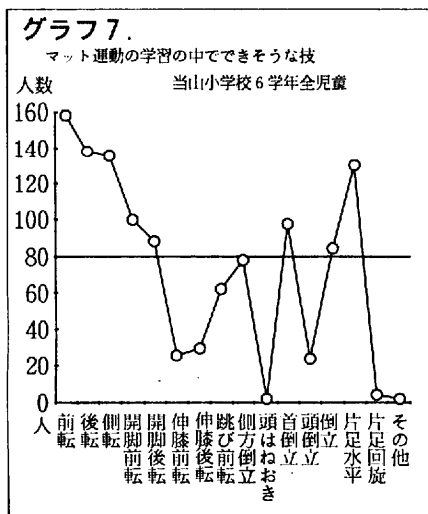
「マット運動の技の中でできそうな技」は、「前転」「後転」「側転」が多く、低学年から慣れ親しんできた技に対し、「できそうだ」と答えた児童が多い。

逆に、「できそうだ」と答えた児童が少ない技は「頭はねおき」「片足旋回」「頭倒立」「伸膝後転」「伸膝前転」等である。



「できる技」を増やしてあげることによってマット運動を「好き」になる児童が増えると思われる。「教師や友達の技」を見せながら、「できる技」を増やしていくことは今後も重視していきたい。

しかし、「友達や教師」が示範できない技や指導のポイント、練習の工夫がよく分からない技については、「教科書」「ビデオ」「技の系統表」なども活用する必要があると考える。



マット運動のビデオ教材の制作にあたっては「できない技」等の練習方法や場の工夫を具体的に提示し、学習者に技ができるまでの活動の道筋が理解しやすいように配慮する必要があると考える。

マット運動のビデオ教材の活用にあたっては「児童の意欲的・主体的学習」を促すように、各個人個人にめあてを持たせ、学習カード等、他の資料とも対応させながら教材活用の工夫を行ってきたい。

② 検証授業指導案

1. 単元計画

(1) 単元名

6 学年 「マット運動」

(2) 運動の特性

① 技術構造の側面から（技能の習得）

- 器械を用いて行う身体操作の運動である。
- 非日常的な運動であり、驚異性を内包した運動である。支持、回転、ひねりなどの運動で自分自身の体を操るという特性があり、系統性、体系性をもった運動である。
- 各種の技に取り組んで、その技や組合せができたとき、さらには、より上手にできるようになったとき、すなわち、技の達成や出来栄に楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

② 心理的な側面から（楽しさや喜びの体得）

- 楽しさや喜びは、各種の技に取り組んで、その技や組合せ技ができたとき、更にはより上手にできるようになったときである。すなわち、技の達成過程にある。

③ 身体の効果側面から（体力の向上）

- 一般に腕で身体を支えたり、跳んだり、回ったりする運動を行うことにより空間における逆位、回転などの身体支配能力を高めることができる。

④ 態度や行動の仕方の面から（社会的態度、健康、安全の態度の育成）

- 独特の運動形態をもつ技に取り組む面が多いので、決断力が養える。
- 仲間との共同的な練習によって、自分の動きや他人の動きを注意して観察できるようになり、協力する態度や動きの良さや美しさを見分ける態度が養える。
- 系統的、体系的な技の出来栄を重視する運動であるため、根気強さや創意・工夫する態度が養える。
- 器械を使うので、その点検などが必要であり、安全に留意する態度が養える。

(3) 学習のねらい

側転、前転、後転、開脚前転、開脚後転、側方倒立回転、とび前転、などの中の得意な回り方やできる回り方で続けて回ったり、新しい回り方に挑戦したりして楽しむ。

(4) 学習の筋道

めあて① 今できる回り方を選び、平らに置いた普通のマットできれいに回ったり、連続技づくりをして楽しむ。

めあて② できそうな回り方や、上手になりたい回り方を選び、やさしく工夫したマットで挑戦する。できるようになったら平マットで、連続したり、組み合わせて回ったりして楽しむ。

(5) 時間配分

全体で7時間扱い。「はじめ」と「まとめ」を各10分とする。

(6) 施設用具

マット（グループに2～3枚）、板の板や踏み切り板、跳び箱、セーフティーマット、ゴムひもと支持台

(7) 学習と指導

はじめ 10分	<p>(1) 学習のねらいと道筋を理解し、学習の進め方について見通しを持つ。</p> <p>(2) グルーピングと役割分担をする。</p> <p>(3) 見合ったり、教え合ったりして、協力して学習することを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">上記内容にして、ビデオ教材「マット運動の学び方（10分）」を全員で視聴</div>		
段階	学習活動		指導上の留意点
なか 35分 + 5時間 + 35分	<p>めあて①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">今できる回り方を選び、平らに置いた普通のマットできれいに回ったり、連続技づくりをして楽しむ。</div> <p>○ グループでマットを設置し、協力して活動する</p> <p>○ 児童書や資料を参考にして、自分の得意な回り方、できる回り方を選ぶ。</p> <p>めあて①の例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">A 前転、後転、開脚後転。慣れたら、それぞれを連続して回ったり、組み合わせて回ったりする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">B 前転や後転の連続、倒立前転、跳び前転。慣れたら、それを組み合わせて回る。</div> <p>○ 初めは、やさしい回り方で体を慣らしていく。</p> <p>○ 慣れてきたら連続して回ったり、組み合わせて回る。</p>	<p>○ めあて①意味がよく分かっていて、自分のできる回り方を選んでるか観察し、必要に応じて助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">各個人のめあての技に応じたビデオ教材「単一種目の紹介と練習方法（各5分）」を必要に応じ、各自で視聴する</div> <p>○ 次のことを観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>① 活動の順序を理解し、めあてをもって活動しているか。</p> <p>② 協力して活動しているか</p> <p>③ できばえを教え合い工夫して活動しているか。</p>	

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
な か 35 分 + 5 時 間 + 35 分	<p>○ グループの人と見合ったり、教え合ったりして協力する。</p> <p>めあて②</p> <p>できそうな回り方や、上手になりたい回り方を選び、やさしく工夫したマットで挑戦。できるようになったら、連続したり、組み合わせて回ったりして楽しむ。</p> <p>○ グループの役割にしたがって、工夫したマットを設置する。</p> <p>○ 児童書や資料を参考にして、自分の力にあった、できそうな回り方や上手になった回り方を選ぶ。</p> <p>めあて②の例</p> <p>板のマットで開脚前転。できるようになったら、平らなマット前転と組み合わせて回る。</p> <p>○ グループを離れ、自分で選んだ回り方を、やりやすいマットの場で練習する。</p> <p>○ 平らに置いたマットでできるようになった回り方は、次の時間からは、ねらい①に入れる。</p>	<p>必要に応じて、教材ビデオ「連続技の紹介～初級・中級上級～（各5分）」を各自で視聴し、自分の連続技づくりに活かすようにさせる。</p> <p>○ やりやすく工夫したマットの設置を指示する。</p> <p>○ 安全に設置されたかを確認する。</p> <p>○ 自分の力に合った回り方を選び、それに適したマットで挑戦しているかを観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>○ 同じマットを使う仲間と協力して活動している観察し助言する</p> <p>○ 大勢が集まるマットが出た場合には、同じマットを設置し、分かれて行うようにする。</p>
ま と め 10 分	<p>(1) 自分の活動を振り返り、学習カードにまとめる。</p> <p>(2) めあての持ち方や活動が適切であったか、児童の学習の反省を発表させる。</p> <p>(3) 仲よく協力して学習できたか話し合う。</p> <p>※ ビデオ教材「発展技の紹介（5分）」を全員で視聴する</p>	

(8) 本時の指導

① 本時のねらい

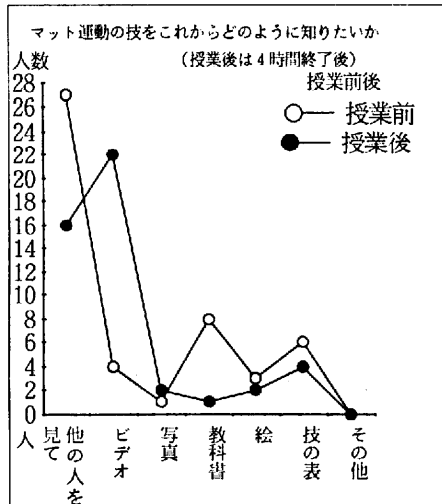
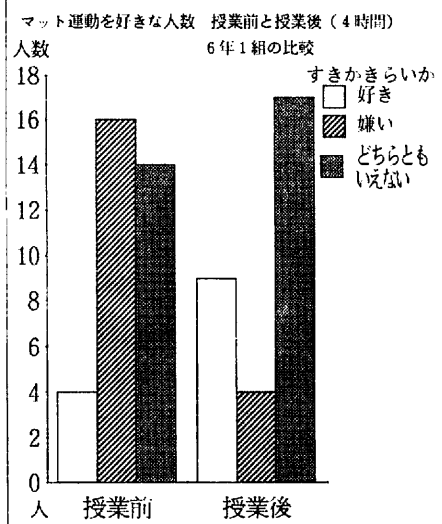
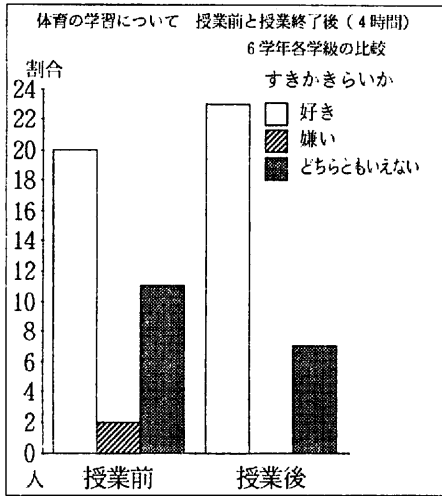
できる技の連続や組合せに挑戦したり、新しい技に挑戦したりして楽しむ。

② 展開 (3/7)

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	10分	<p>◎準備運動をする。</p> <p>◎試技をして自分のめあてを明確にする。</p>	<p>○ マットを準備する。 (グループごとに準備する)</p> <p>○ グループごとに準備運動をする。</p> <p>○ 今できる簡単な技で体ならしをする。</p> <p>○ グループ内で試技をし、友達と話し合いながら、自分のめあてを明確にする。 (ビデオ、技のポイント)</p>	<p>◇ 各グループ3枚(他に踏み切り板などを準備する)</p> <p>◇ 柔軟体操を行なう。</p> <p>◇ 技のつまづき、練習のポイントを明確にする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ビデオ操作に十分慣れていないので、「伸膝後転」…の練習方法を見ながらビデオの活用の方法を確認する</p> </div>
展開	30分	<p>◎ 自分のめあてを明確にする</p> <p>◎ 補助具の使い方を知る。</p>	<p>○ グループ内で見合い・教え合いながら練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて① できる技の連続や組み合わせに挑戦する。</p> </div> <p>○ 音楽が流れている間に、(約10分)友達に自分の連続技を見てもらう。</p> <p>○ 補助・記録などを交代しながら練習を行う。</p>	<p>◇ めあてにそった場づくりをさせる。</p> <p>◇ 巡回し、技のつまづき、ポイントを指導・助言する</p> <p>◇ <u>ビデオは、必要に応じて活用させる。</u></p> <p>◇ 自己評価・相互評価が行なわれるように、必ず、友達2人に連続技の評価を記入してもらうようにさせる</p> <p>◇ 補助具の使い方について説明する。安全面の注意。</p>

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
展 開	30 分	めあて② できそうな技の連続や組合せに挑戦する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽が流されている間に、(約10分)友達に自分の連続技を見てもらう。 ○ 補助・記録などを交代しながら練習を行う。 ○ 技のつなぎ方に注意する ○ 友達の連続技を見るポイント <ul style="list-style-type: none"> ・選択した技が十分にできているか。 ・リズムカルに技をつなげているか ・スピードがあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 補助具の使用例がビデオ教材の中にもあることを知らせる。例) 補助倒立, 倒立, 跳び前転, 側方倒立回転, 前転, 後転等 ◇ めあてにそった場づくりさせる。 ◇ 巡回し、技のつまづき、ポイントを指導・助言する ◇ ビデオは、必要に応じて活用させる。 ◇ 連続技の評価を記入してもらうようにさせる。
		◎ 練習の確かめ合い	<ul style="list-style-type: none"> ○ あめて①や②の連続技の中から練習の成果を発表し合う。 ○ 友達のよいところを見つけたり、アドバイスしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 向上した点を認めたり、つまづいている点をアドバイスしたりして次時の課題を示唆する。
ま と め	5 分	◎ 整理運動をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のまとめと次時のめあてを話し合う。 ○ 整理運動をする。 ○ マットを片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学習に対する意欲が次時につながるように配慮する ◇ 片付けは、協力して行わせる。

③ 授業の分析



○ 左の3つのグラフは、「ビデオ教材」を使ったマット運動の学習の授業前と授業後の比較である。

授業者の分析 (第1時から4時までの実践をふりかえって)

「マット運動において、指導内容を明確化にしてビデオ教材を、指導計画の中に位置付け、各段階に応じた方法で活用することにより、児童を意欲的・主体的な学習に導くことができるであろう」という研究仮説に準じ、授業分析を行ってみたい。

マット運動違いが12人減り、ビデオ教材に新しく18人が興味を示し、学習に対する意欲が感じられる。

しかし、ビデオ教材の活用方法は、まだ改善の余地が多く、学習の流れや、学習カード、補助具などとの関連のさせ方、視聴と実践の関連のさせ方等、課題は多い。

授業研究会で浦添市立教育研究所の先生方から頂いた御意見（第3時の検証授業について）

良かった点

- 子どもたちがよくビデオを活用していた。
- 子どもたちが視聴覚に慣れていた。
- ビデオだけでなく、実技も平行して行ったのは良い。
- 子どもの関心を引き出す学習ができていた。
- 子どもたちは喜んで授業に参加していた。

改善を要する点

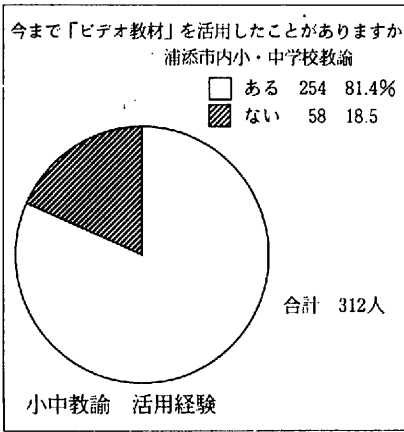
- △ 班で練習を行うのか、個人で練習を行うのか、めあてに応じた方法（めあて1. は班、めあて2. は個人）で行わせるようにしたい。
- △ ビデオの前で、長い間動かない児童がいたが、運動量の面から指導が必要
- △ 学習カードをもっと活用せざる工夫が必要。
- △ 授業の段階で音楽は、ビデオの音の邪魔になっていた。

(2) ビデオ教材活用までの諸問題と改善の一方策

	活用における諸問題	改善の一方策
ビデオ教材の作成段階	● ビデオ教材作成の手順があまり知られていない。	○ ①ビデオ教材制作の講習会の企画, ②教材制作手引き書の作成, ③ビデオ教材の紹介の場をつくる等の必要性を感じる。
	● 作成には時間と費用がかかる。	○ ①気張らずに, 内容の焦点化を図る, ②研究グループ等でやると量・質ともに向上できる, ③良い教材は, 複写して各学校で使うようにし, 教材利用度を高める。 ○ 教育効果が高いので, 多方面(教育委員会, 学校, PTA)に協力を要請する。
	● 編集機器がない。	○ 2つの家庭用ビデオデッキがあれば, 編集は可 ○ 教育研究所等の施設を学校や教育個人でも利用 ○ 新教育備品品目に編集器が加わった。今後, 学校規模に関わらず, 導入してほしい。
ビデオ教材の活用段階	● 体育館にビデオ視聴する機材等がない	○ 放送室や特別教室と同じく, 体育館用にもビデオ視聴のできる設備を各学校に備えたい。 ○ ビデオ教材活用の良さの理解を紹介したい。
	● 体育館で使用する際に, テレビ台が必要である。移動式のものがあるとよい。 ● 市販されているビデオが本校には無い。(体育)	○ 今回, PTA予算をから教材費を出してもらいテレビ移動台を作成したが, 1万円程度で作成可 ○ 学校に, 市販教材や自作教材が, 活用しやすいようにビデオラック等を備え学校用ビデオライブラリーを設置できないだろうか。
	● 準備に時間がかかる。 ● 児童がビデオ操作に慣れていない。 ● 受動的学習にならないか。	○ 徐々にビデオ教材活用に慣れてきているので, 継続して活用させていたい。 ○ 学習カードで自己評価をさせ, 映像と自己の目標を対応させながら, 能力的な学習参加を促すように教師も配慮していきたい。

4. ビデオ教材の活用に関する実態調査と考察（施設・設備，活用における問題点）

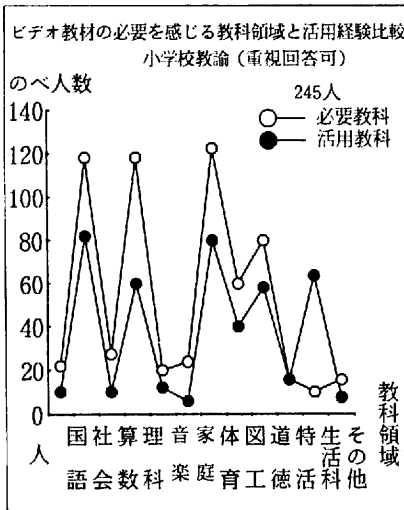
（平成5年5月 浦添市内の小・中学校16校，小学校教諭245人，中学校89人対象，なお未回答数もあり，総合計数に差異がある）



◎ 左のグラフは，浦添市内の小学校・中学校教諭312人を対象に「ビデオ教材」の活用経験の調査結果である。

◎ 「ビデオ教材」の活用経験がある先生は，312人中，81.4%，254人。活用経験のない先生は18.5%，58人である。

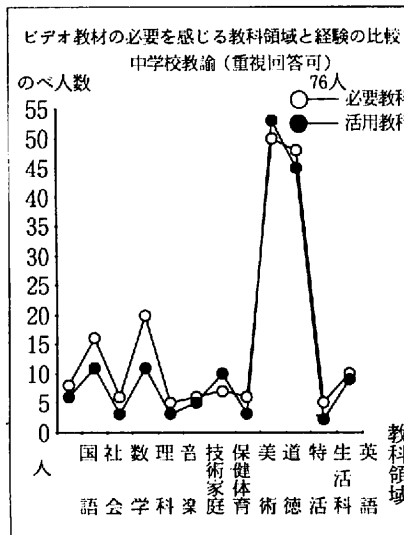
◎ 浦添市内の小学校・中学校の約8割の先生方が「ビデオ」教材の活用経験があることが分かる。



◎ 左のグラフは，浦添市内の小学校の先生方245人を対象に，「ビデオ教材」の必要性を感じる教科・領域と，活用したことがある教科・領域について質問をした。

◎ ビデオ教材を必要だと感じている人数が多いのに対して，活用したことがある教科・領域は，少ないことが分かる。

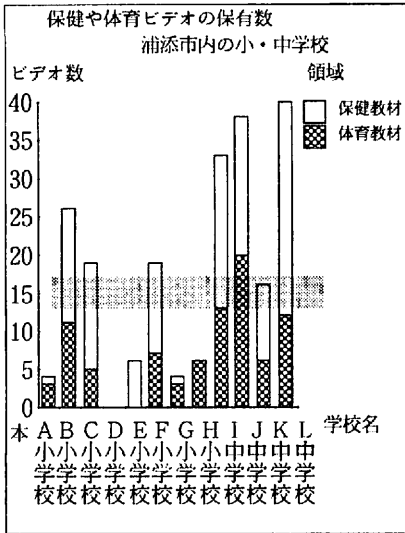
◎ 小学校で，特に必要感を感じているビデオ教材の教科・領域は，「体育」「社会」「理科」である。



◎ 同じ質問をし，中学校の先生方76人から回答を得た。「ビデオ教材」の必要性を感じている教科・領域は，小学校とは大きな差異が見られる。

◎ 小学校と違い，必要と感じている教科・領域と活用したことがある教科・領域の差はあまり見られない。

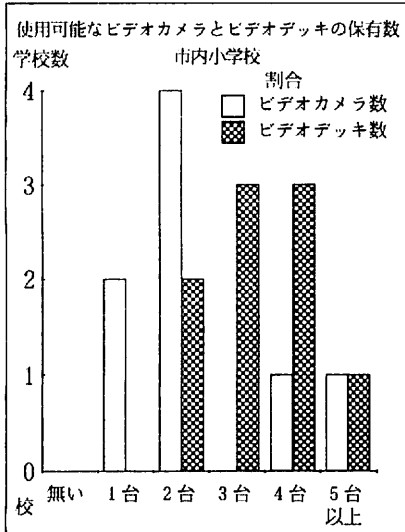
◎ 中学校で，特に必要感を感じているビデオ教材の教科・領域は，「道徳」「特活」で，小学校に比較すると「体育」等は少ない。



◎ 左のグラフは、浦添市内小学校8校、中学校4校にある「保健」や「体育」の「ビデオ教材」保有数を調査したものである。

◎ 「体育」の「ビデオ教材」は、小学校で少なく、「まったくない」「1～2本」の小学校が合わせて4校もある。

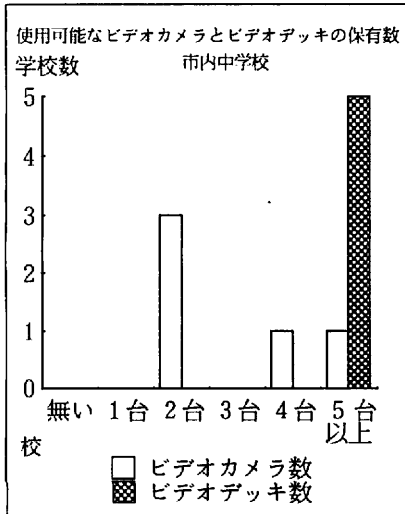
◎ 文部省新標準教材品目によると、小学校31学級規模でビデオテープが180本（未録画テープを除く）必要であると示されている。中学校でも15学級で、170本必要であると示されている。総数の10分の1程度を保健体育ビデオにあてるとすると、現状では、17～18本必要であるということから、改善が必要であると考えられる。



◎ 次に、浦添市内の小学校において、使用可能なビデオカメラとビデオデッキ（ビデオテープレコーダー）の保有数を調査した。

◎ 文部省新標準教材品目によると、小学校31学級で必要なビデオカメラは、3台、ビデオデッキ（ビデオテープレコーダー）は、41台必要であると示されている。

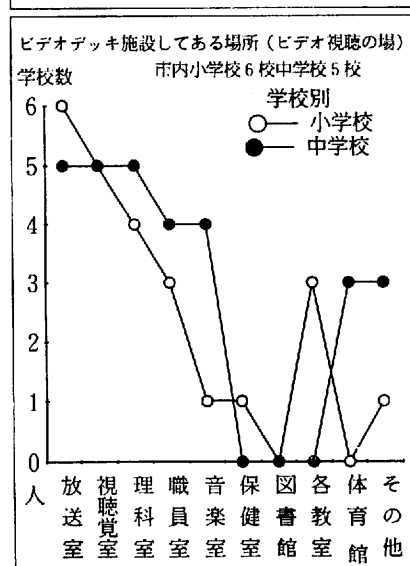
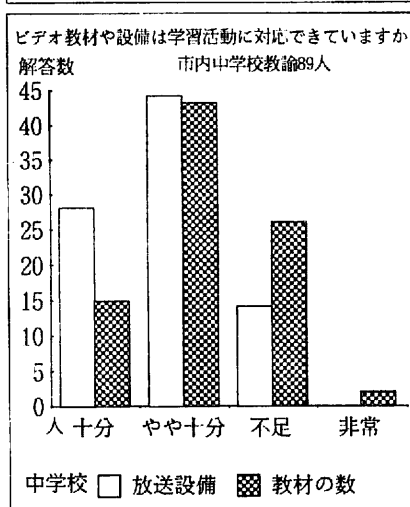
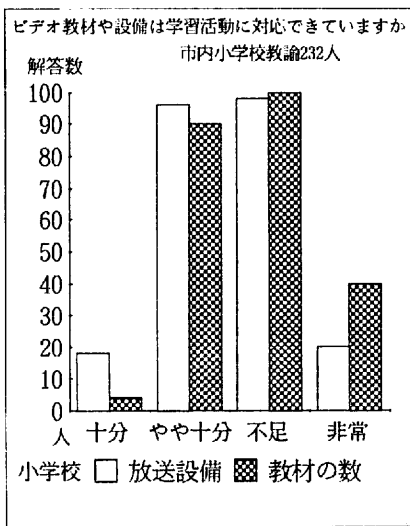
◎ 小学校では、ビデオカメラは、ほぼ現状で良いが、ビデオデッキ（ビデオテープレコーダー）は、各学級に1台、また、特別教室、体育館にも設置が望まれる。



◎ 同じく、浦添市内の中学校の現状を調査してみた。

◎ 小学校と比較して、ビデオデッキ（ビデオテープレコーダー）の保有数が多い。

◎ 文部省新標準教材品目によると、中学校15学級で、ビデオカメラは2台、ビデオデッキ（ビデオテープレコーダー）は、20台必要と示されている。
中学校でも、各学級に1台、特別教室、体育館にも設置したいものである。



- ◎ 「ビデオ教材」や「放送設置」は、学習活動に十分対応できていると思うかを質問し、232人の小学校の先生方から回答を得た。
- ◎ 小学校では、「ビデオ教材」、「放送設備」とも不足していると感じている先生方が多い。
- ◎ 「ビデオ教材」は、「放送設備」に比較し、「不足」であると答えている人数が多い。

◎ 小学校においては、特に、「ビデオ教材」の不足が多く指摘されている。(不足・非常に不足が232人中、約130人)

- ◎ 同じ質問をし、中学校の先生方89人から回答を得た。
- ◎ 小学校と比較して、「十分」「やや十分」と答える傾向が見られる。

◎ 中学校では、小学校ほど顕著ではないが、小学校と同じように「ビデオ教材」の不足が指摘されている。(不足・非常に不足が89人中、約25人)

- ◎ 最後に、「ビデオ視聴の場」の問題点について考えてみたいと思う。
- ◎ ビデオ視聴ができる場は、学校内のどこに位置しているかを調査し、その問題点を考えてみた。
- ◎ 放送室……全員では視聴ができるほどスペースがない。小学校では、親子テレビなので、放送室からビデオを流すと、他学年が教育放送の視聴ができなくなるので十分活用されることができない。
- ◎ 視聴覚室……全員で視聴できるが、最近ではコンピュータ設置などで、使えなくなっている学校が多い。
- ◎ 理科室……他学級への貸し出しは難しい(活用度が高い)

◎ ビデオが使えても、学級全員が視聴できる場が少ない。特に、小学校では少なく、改善が望まれる。視聴覚を通して、学習内容を伝達することは、どの教科・領域でも学習効果が高まるものであると考え、市全体の課題として考えてみたい。

Ⅶ 研究の成果と今後の課題

研究の成果

1. マット運動の場の工夫や「マットあそび」と「マット運動」との系統的なつながりを把握するために、「マット運動の技の系統表・マット運動歴史年表」の作成を行い、ビデオ教材制作に活かすことができたこと。
2. 「楽しいマット運動」のビデオ教材を作成したこと「マット運動の学び方」 「単一種目紹介・練習の工夫」「連続技の紹介」「発展技の紹介」の17巻。
3. PTA予算で材料を購入し、テレビ移動台を作成し、施設を整えたこと。
4. 「マット運動が好き」と答えた児童が授業前の4人から9人に増え、「嫌い」と答えた児童が、授業前の16人から4人に減少した（4時間授業終了時の調査）こと。
5. 「ビデオでマット運動の技を学びたい」と考える自答が4人から22人に増え本研究テーマの「意欲的・主体的学習をめざすビデオ教材の制作と活用」のねらいにそった取り組みに、効果が少しあらわれたこと。

今後の課題

1. ビデオ視聴の時間を設定することによって起こる運動量の減少をどのように解決していくか。（学習方法の質的向上による運動量増加の図り方）
2. 「意欲的・主体的学習」を促すために、「ビデオ教材」だけでなく、他の学習資料や教具等と関連させた「ビデオ教材」の活用方法はどうか。
3. 体育館等でもビデオ視聴のできる施設・設備の充実を図る。
4. 他の先生にも紹介できる「ビデオ教材作成マニュアル（手引書）」の作成
5. 児童の意欲的な意見を取り入れた、教材の制作や他の教科・領域の「ビデオ教材」制作への取り組み。

Ⅶ 参考文献および引用文献

- | | | | |
|-------------|-------------------------------------|------------|-------------|
| 梅田二郎編 | 『体育科授業研究4・5・6年』 | ぎょうせい | 1989, 9, 30 |
| 熱田則夫監修 | 『個人差の応じた学習指導の展開 体育』 | ぎょうせい | 1989, 7, 20 |
| 保坂一郎他編 | 『新しい学力観による小学校体育』 | 東洋館出版 | 1992, 9, 1 |
| 杉山重利他編 | 『改訂小学校学習指導要領の展開体育科編』 | 明治図書 | 1989, 6, |
| 大田昌秀編 | 『小学校体育技術実践指導全集 器械運動』 | 日本教育センター | 1992, 2, |
| 嘉戸 脩編 | 『楽しさを深める体育授業の実際 6年』 | 教育出版 | 1990, 3, 20 |
| 西沢 宏編 | 『マット遊びからマット運動の連続技へ』 | 明治図書 | 1990, 9, 3 |
| 三浦 勇編 | 『マット遊び・マット運動』 | 東洋館出版 | 1990, 8, 10 |
| 古屋三郎編 | 『6年の体育 月別指導の重点と指導事例』 | 国土社 | 1990, 6, 30 |
| 佐藤勝弘編 | 『小学校体育実技実践指導全集 施設、用具、教育機器の工夫・活用』 | 日本教育図書センター | 1992, 2, |
| 森 正康編 | 『教育機器の活用』 | ぎょうせい | 昭和61, 8, 20 |
| 日本教育工学会監修 | 『映像を活かす授業』 | ぎょうせい | 1988, 8, 31 |
| 岩本義幸著 | 『自作ビデオづくりのヒント』 | 総合企画 | 1992, 10, |
| 野田一郎著 | 『教師のためのビデオ作成入門』 | 日本放送協会発行 | 平成4, 6, 30 |
| 八重樫克羅編 | 『創る 教師のためのビデオ作成技法』 | 日本放送協会発行 | 1989, 6, 30 |
| 八尾市教育委員会教育課 | 『ビデオによる授業研究 学校づくりへの発展(試案)』 | 八尾市教育委員会 | 平成2, 3, 31 |
| 相模原教育研究所 | 『情報化社会に対応した学校経営のあり方に関する研究 研究入録120集』 | 相模原市教育研究所 | 平成3, 7 |
| 桑名市教育研究所 | 『VTR教育ソフト開発グループ報告書』 | 桑名市教育研究所 | 平成2, 3, |
| 桑名市教育研究所 | 『ビデオで加える英語指導 授業の活動のために』 | 桑名市教育研究所 | 平成3, 3, |